

子どもの携帯電話等の利用に関する調査

平成21年5月

株式会社 富士通総研

目次

第1章 調査概要

1.1. 調査目的	1
1.2. 調査仕様	1
1.3. 調査検討委員会	2
1.4. 調査報告書の見方について	3
1.5. 回答者属性	4

第2章 調査結果

2.1. 携帯電話の利用状況	7
○ 携帯電話の所有状況	7
○ 携帯電話とメールアドレスの所有数	9
○ 携帯電話とメールアドレスの複数所有の理由	10
○ 携帯電話で利用できる機能	11
○ 携帯電話を持った／持たせた理由	12
○ 子どもの携帯電話の契約名義者	14
○ 携帯電話での一日平均通話時間	15
○ 携帯電話での一日平均メール送受信件数	17
・ 子どもと保護者の携帯電話の利用状況（通話、メール）	19
○ 相手別の子どものメールの頻度	21
○ 保護者と子どもとの通話やメールの頻度	25
・ 子どもに携帯電話を持たせた理由と、子どもとの通話やメールの頻度	26
○ 携帯電話の利用場面	27
○ 携帯電話の使い方に関する家庭でのルール（子ども）	33
○ 携帯電話の使い方に関する家庭でのルール（保護者）	35
・ 携帯電話のメールの送受信件数と、家庭における具体的ルール	36
・ 家庭におけるルールの有無と、携帯電話の利用状況（使用する時間帯ごと）	37
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、家庭におけるルールの有無	44
・ 家庭におけるルールについての子どもと保護者の認識の差	46
・ 家庭におけるルールの有無と、保護者の見守り姿勢	47
○ フィルタリング使用の有無	51
○ フィルタリングを使用していない理由	53
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、フィルタリングの利用の有無	54
○ 子どもの携帯電話利用に対する保護者の注意・関心	56
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、子どもの使い方への関心・注意	58
○ 毎月のパケット量と有料コンテンツ利用料金	60
○ 携帯電話を持っていない／持たせていない理由	61

○ 将来子どもに携帯電話を持たせる予定	63
2.2. 携帯電話やパソコンを使ったインターネットの利用状況	64
○ 子どものインターネットの一日平均利用時間	64
○ 保護者のインターネットの一日平均利用時間	66
・ 子どものインターネット利用状況と、保護者のインターネット利用状況	68
○ 子どものインターネット上のサイト等の利用経験	70
○ 子どものインターネット上のサイト等の利用経験に対する保護者の認識	79
○ 保護者のインターネット上のサイト等の利用経験	82
○ 保護者のインターネット関連用語の認知度	91
2.3. 生活の状況	96
○ 子どもの就寝時間	96
・ 携帯電話の所有の有無と、就寝時間	97
○ 子どもの就寝時間に対する保護者の認識	98
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、就寝時間	98
・ インターネットの利用状況と、就寝時間	99
○ 日常生活における家庭でのコミュニケーション	101
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、家庭でのコミュニケーション	108
○ 日常生活における外部との関わりの状況	110
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、日常生活における外部との関わりの状況	113
2.4. 意識・評価	115
○ インターネットの利用マナーに関する意識	115
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、インターネットの利用マナーに関する意識	119
・ 家庭でのコミュニケーションの状況と、インターネットの利用マナーに関する意識	122
・ 家庭でのルールの有無と、インターネットの利用マナーに関する意識	125
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（子ども）と、利用マナーに関する意識	128
・ 家庭における保護者の見守り姿勢と、インターネットの利用マナーに関する意識	131
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、利用マナーに関する意識	136
・ 学校における携帯電話の利用に関する教育の取組と、利用マナーに関する意識	139
○ 携帯電話に対する評価	142
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話に対する子どもの評価	144
・ 保護者の携帯電話の所有の有無と、携帯電話に対する保護者の評価	145
・ 携帯電話やアドレスの所有数と、携帯電話に対する子どもの評価	147
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、携帯電話に対する子どもの評価	148
・ 携帯電話でのインターネット利用時間と、携帯電話に対する子どもの評価	149
○ 携帯電話のよい点	150
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話のよい点（子ども）	152
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、携帯電話のよい点（子ども）	153

・ 携帯電話でのインターネット利用時間と、携帯電話のよい点（子ども）	154
・ 保護者や子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話のよい点（保護者）	155
○ 携帯電話の心配な点	157
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話の心配な点（子ども）	159
・ 携帯電話を持った理由と、携帯電話の心配な点（子ども）	160
・ 携帯電話でのメール送受信件数と、携帯電話の心配な点（子ども）	161
・ 携帯電話でのインターネット利用時間と、携帯電話の心配な点（子ども）	162
・ 保護者や子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話の心配な点（保護者）	163
・ 子どもに持たせた目的と、携帯電話の心配な点（保護者）	165
○ フィルタリングの必要性に関する認識	166
・ 携帯電話の所有の有無と、フィルタリングの必要性に関する認識	167
・ フィルタリングの使用の有無と、フィルタリングの必要性に関する認識	168
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（子ども）と、フィルタリングの必要性に関する認識	169
・ 保護者の見守り姿勢と、フィルタリングの必要性に関する認識	170

2.5. 携帯電話に関わる問題171

○ 携帯電話やパソコン利用によるトラブルの経験	171
・ 携帯電話の所有の有無と、トラブルの経験	172
・ 家庭での携帯電話のルールの有無と、トラブルの経験	173
・ フィルタリングの使用の有無と、トラブルの経験	174
・ 携帯電話でのインターネット利用時間と、トラブルの経験	176
・ 家庭でのコミュニケーションの状況と、トラブルの経験	178
○ トラブル時の相談相手	179
・ 家庭でのコミュニケーションの状況と、トラブル時の相談相手	180
・ トラブルの内容と、相談相手	181
○ トラブル時に誰にも相談しなかった理由	189
○ 保護者が子どもから相談を受けた経験	191
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、子どもからの相談内容	192
・ 家庭でのコミュニケーションの状況と、子どもからの相談を受けた経験	193
○ 携帯電話やパソコン利用による問題行動	195
・ 携帯電話の所有の有無と、問題行動の経験	196
・ 利用マナーに関する家庭でのルールの有無と、問題行動の経験	197
・ 携帯電話でのインターネット利用時間と、問題行動の経験	198
・ 家庭でのコミュニケーションの状況と、問題行動の経験	199
○ 携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験（子ども）	200
・ 携帯電話等の危険性の学習経験と、トラブルの経験	201
・ 携帯電話等の危険性の学習経験と、問題行動の経験	202
○ 携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験（保護者）	203
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、トラブルの経験	204
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、問題行動の経験	205

・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、子どもが保護者から学んだ経験	207
○ 携帯電話について必要な取組	208
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話について必要な取組（子ども）	210
・ 家庭でのルールの有無と、携帯電話について必要な取組（子ども）	211
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（子ども）と、携帯電話について必要な取組（子ども）	212
・ 子どもの携帯電話の所有の有無と、携帯電話について必要な取組（保護者）	213
・ 携帯電話等の危険性の学習経験（保護者）と、携帯電話について必要な取組（保護者）	214
2.6. 学校における対応	215
○ 学校への持ち込みに関するルール	215
・ 学校への持ち込みに関するルールと、携帯電話の所有状況	216
・ 学校への持ち込みに関するルールと、メール送受信件数	217
・ 学校への持ち込みに関するルールと、携帯電話の利用場面	218
○ 携帯電話の利用に関する教育の取組状況	220
・ 携帯電話の利用に関する教育の取組状況と、トラブルの経験	221
・ 携帯電話の利用に関する教育の取組状況と、問題行動の経験	223
・ 保護者との連携に関する学校の取組状況と、保護者の見守り姿勢	225
・ 携帯電話の利用に関する教育の取組状況と、子どもが学校で学んだ経験	228
○ 携帯電話の利用に関する教育を行うための取組	229
○ 携帯電話の利用に関する教育の形態	230
○ 情報モラル教育の内容	232
○ 情報モラル教育の実施者	233
○ 情報モラル教育を実施している教科等	235
・ 情報モラル教育を実施している教科等と、情報モラル教育の内容	236
○ 携帯電話利用による問題事例	238
・ 問題事例の確認状況と、学校への持ち込みに関するルール	239
・ 問題事例の確認状況と、携帯電話の利用に関する教育の実施状況	240
○ インターネットの掲示板等の確認状況	242
○ 児童生徒の悪口や誹謗中傷の書き込みを見つけた場合の対応	243
・ 問題事例の確認状況と、ネットパトロールの実施状況	244
○ 携帯電話について必要な取組	245
2.7. 携帯電話の利用頻度別に子どもをグループ化した分析	247
○ グループ別にみた子どもの状況・意識・評価	248
○ 保護者からみた状況・意識・評価	261
2.8. 調査結果についての考察	270

<資料編>

アンケート調査票(児童生徒(小学6年生、中学2年生)用).....	資- 1
アンケート調査票(児童生徒(高校2年生)用)	資-13
アンケート調査票(保護者用)	資-25
アンケート調査票(学校用).....	資-37

第1章 調査概要

1.1. 調査目的

急速に社会の情報化が進展する中で、子どもたちの情報活用能力をはぐくむとともに、情報化の影の部分の対応として、情報モラルの育成等も極めて重要となってきた。

本調査は、子どもたちの携帯電話の利用実態や意識等について、子どもとその保護者・学校を対象として調査を実施し、今後の効果的な取組を推進していくための基礎資料を得ることを目的とする。

1.2. 調査仕様

(1) 調査対象・回収

日本全国の小学6年生、中学2年生、高校2年生および当該児童生徒の保護者

日本全国の小学校、中学校、高等学校

調査対象	配布数	回収数	回収率(%)
小学6年生	5339人(79校)	3157人(51校)	59.1
中学2年生	5446人(46校)	3716人(35校)	68.2
高校2年生	6108人(34校)	3575人(27校)	58.5
児童生徒(計)	16893人(159校)	10448人(113校)	61.8
小6保護者	5339人(79校)	3056人(51校)	57.2
中2保護者	5446人(46校)	3515人(35校)	64.5
高2保護者	6108人(34校)	2963人(26校)	48.5
保護者(計)	16893人(159校)	9534人(112校)	56.4
小学校	2000校	730校	36.5
中学校	2000校	909校	45.5
高等学校	1000校	534校	53.4
学校(計)	5000校	2173校	43.5

※括弧内数字は学校数ベースの配布数・回収数

(2) 調査方法

学校調査に関しては、調査票を学校に郵送し、郵送回収している。

児童生徒と保護者に対しては、学校調査対象校のうちの一部の学校を対象として、学校経由で調査票を配布し、学校経由で回収した。その際、児童生徒と保護者を紐づける目的から、調査票をセットで渡してもらうように依頼した。

また、児童生徒および保護者に対しては、本人以外に調査の回答内容を見ることができないよう、本人が調査票を封入・封緘した上で回収した。

(3) 抽出方法

層化二段階無作為抽出方法

【層化】

a. 全国の都道府県を単位として次の6地区に分類した。

- ・ 北海道・東北地区＝北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- ・ 関東・甲信越地区＝茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県
- ・ 中部地区＝富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

- ・ 近畿地区＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国・四国地区＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州・沖縄地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

b. 各地区においては、さらに都市規模によって次のように分類し、それぞれを第1次層として、計24層とした。

※ 人口による都市規模の分類は、平成20年3月31日現在住民基本台帳に基づく「全国人口・世帯数表人口動態表」(総務省自治行政局編)に従う。

- ・ 特別区(東京23区)および政令指定都市(以下、「大都市」と定義。)＝東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市
- ・ 人口10万人以上の都市
- ・ 人口10万人未満の都市
- ・ 郡部(町村)

【抽出】層化によって設定された各層における等間隔抽出法

(4) 調査期間

平成20年11月21日～平成20年12月15日

(5) 調査内容

- (1) 携帯電話の利用状況
- (2) 携帯電話やパソコンを使ったインターネットの利用状況
- (3) 生活の状況
- (4) 意識・評価
- (5) 携帯電話に関わる問題
- (6) 学校における対応

1.3. 調査検討委員会

本調査事業の検討は、次の検討委員が行った。

(委員は五十音順、敬称略)

座長	小泉力一	(尚美学園大学芸術情報学部 教授)
委員	西田光昭	(千葉県柏市立田中小学校 教頭)
	藤川大祐	(千葉大学教育学部 准教授)
	水木尚充	(横浜市教育委員会小中学校教育課児童生徒指導担当 指導主事)
	安川雅史	(全国 web カウンセリング協議会 理事長)
	山田幸久	(社団法人日本 PTA 全国協議会環境対策委員会 副委員長)

1.4. 調査報告書の見方について

- ・図表中の「n」は設問の全回答者数を示す。
- ・調査結果のグラフは、各回答の割合（％）で表示する。
- ・各回答の割合(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、各回答の割合(%)の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問においては、各回答の割合(%)の合計は100%にならない。
- ・クロス集計では、分析軸の「その他」「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- ・クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。
- ・この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \quad \left[\begin{array}{ll} b = \text{標本誤差} & N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} & n = \text{比率算出の基数（サンプル数）} \end{array} \right]$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答の比率 (p) 基数 (n)	10% または 90%前後	20% または 80%前後	30% または 70%前後	40% または 60%前後	50%前後
50	±12.0%	±16.0%	±18.4%	±19.7%	±19.9%
100	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%
200	±5.9%	±8.1%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
500	±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.4%
750	±3.1%	±4.0%	±4.7%	±5.1%	±5.2%
1000	±2.7%	±3.5%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
1500	±2.3%	±3.0%	±3.4%	±3.5%	±3.7%
2000	±1.8%	±2.5%	±3.0%	±3.1%	±3.1%
2500	±1.7%	±2.3%	±2.5%	±2.8%	±2.8%
3000	±1.6%	±2.1%	±2.4%	±2.5%	±2.5%
3500	±1.4%	±2.0%	±2.3%	±2.4%	±2.4%

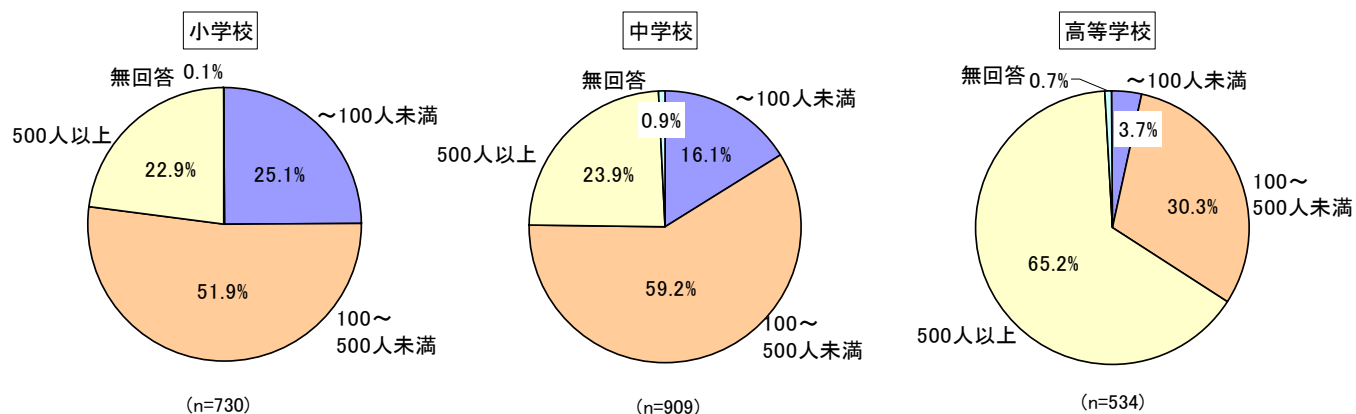
<注／この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が 2,000 人あり、その設問中の選択肢の回答比率が、60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.1%以内（56.9%～63.1%）である」とみることができる。

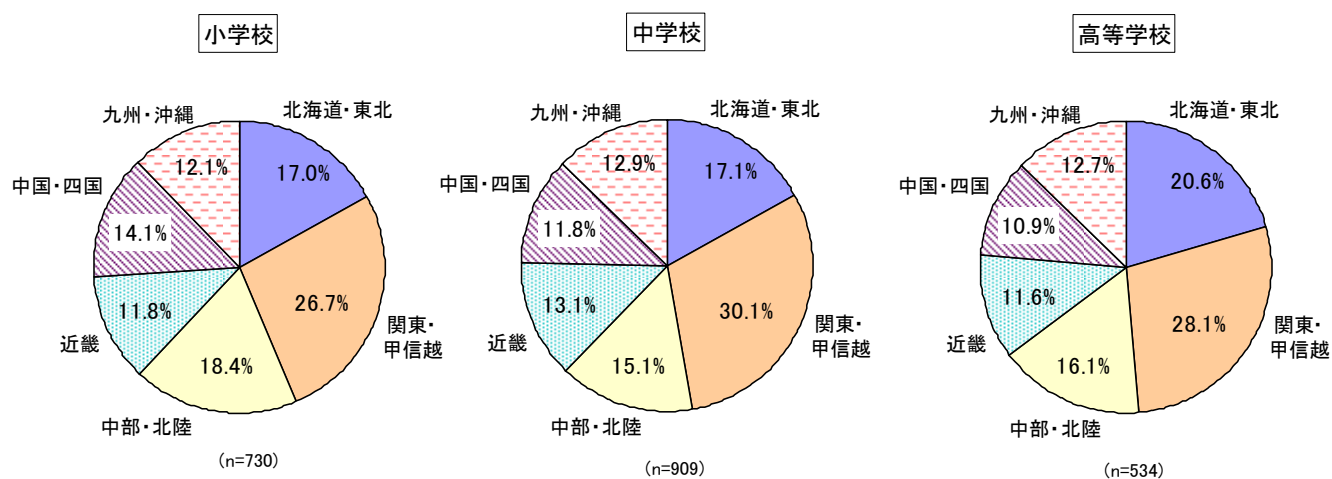
1.5. 回答者属性

学 校

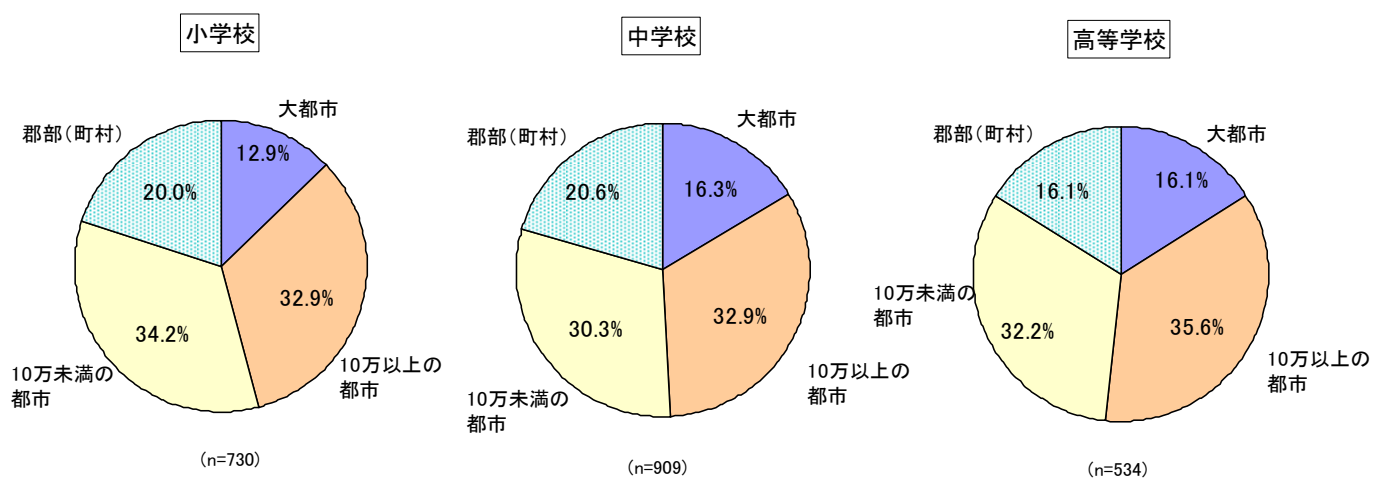
● 全校児童生徒数



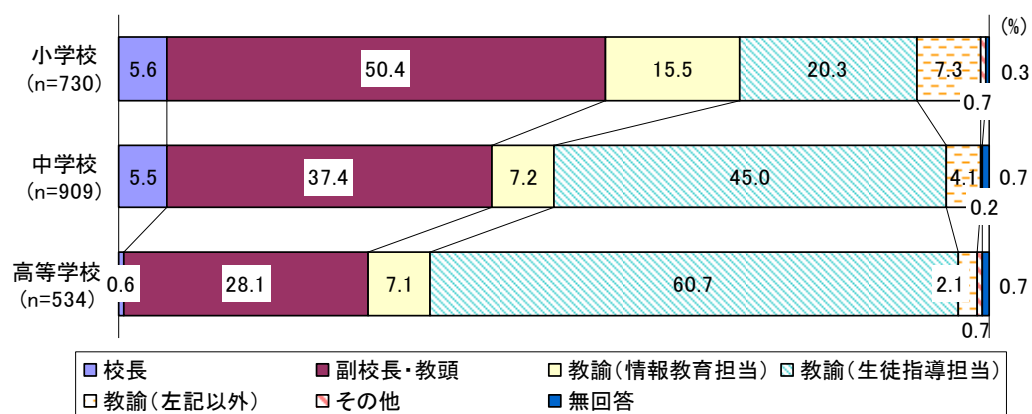
● 地域



● 所在地の都市規模

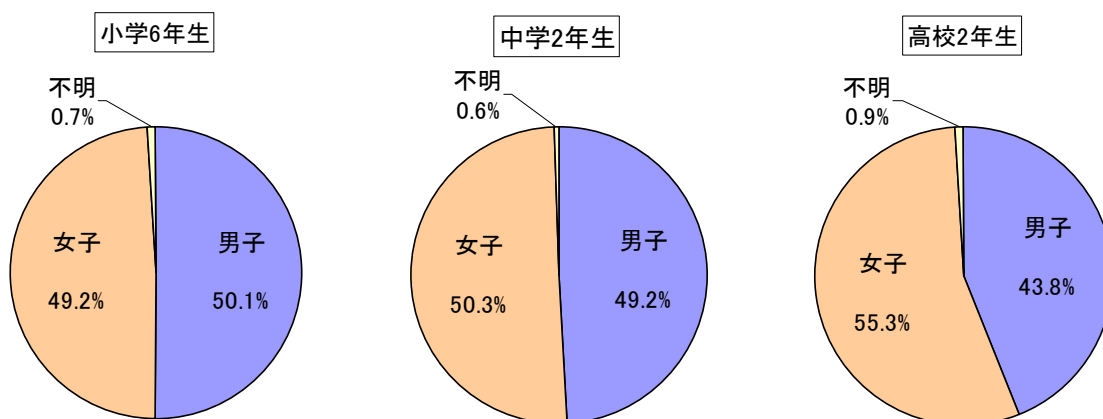


● 記入者

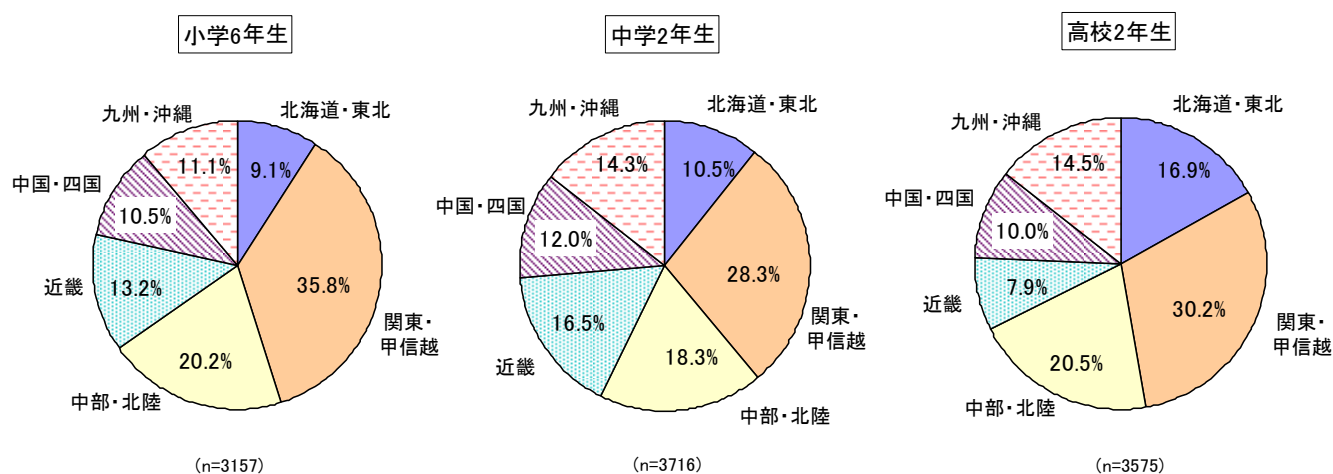


児童生徒

● 性別



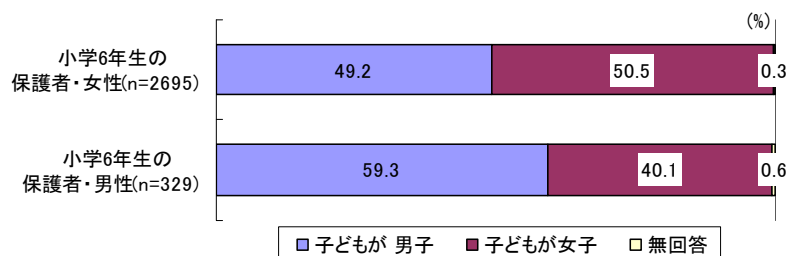
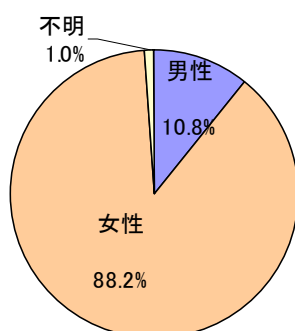
● 地域



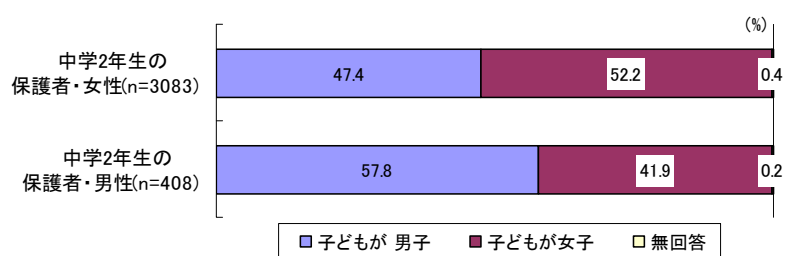
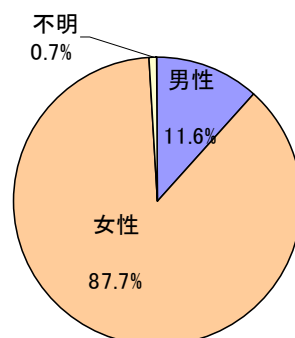
保護者

● 性別

小学6年生の保護者



中学2年生の保護者



高校2年生の保護者

